

## 水稲除草剤普及適用性試験における供試薬剤の推移（関東）

関東地域における水稲除草剤普及適用性試験の供試薬剤の推移（平成20年～28年）は次の通り。

- ① 普及適用性試験の供試薬剤数は30剤～50剤、試験点数は60箇所～120箇所で行っている（図-1, 2）。
- ② 内訳としては移植栽培の一発処理剤が6～7割と多く、次いで体系処理剤の試験が行われている（図-1, 2）。直播栽培はH24～26に多かったが、H27～28は少なくなった（図-2）。
- ③ 供試薬剤の有効成分数をみると、H22～25は2成分剤、H26からは3成分剤の試験が多数行われている。なお、本年は4成分剤の試験が比較的多かった（図-3）。
- ④ 評価はほとんどがA評価である。最近2年間はB評価が少ない（図-4, 5）。

図-1 水稲関係除草剤試験における供試薬剤数の推移

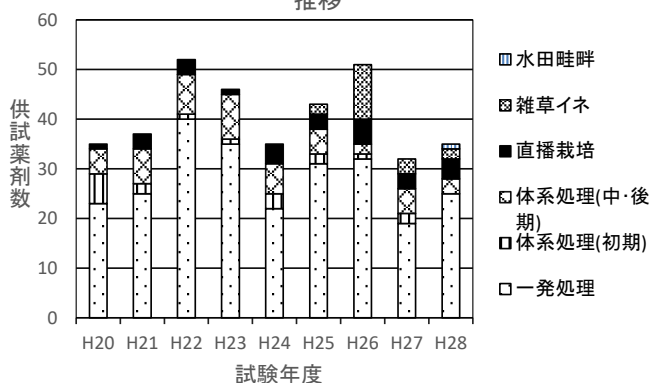


図-2 水稲除草剤試験の試験点数の推移

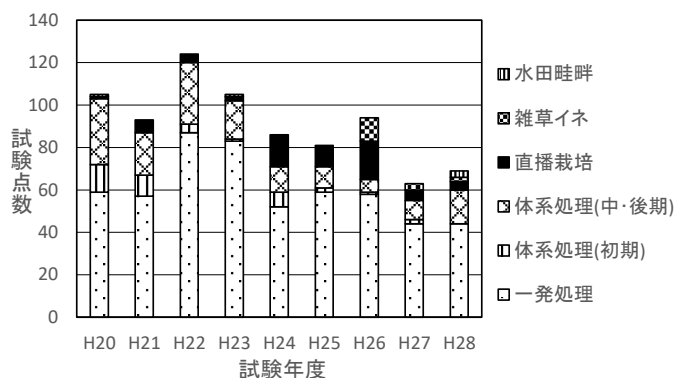


図-3 移植栽培試験(雑草イネは除く)における有効成分数別の供試薬剤数の推移

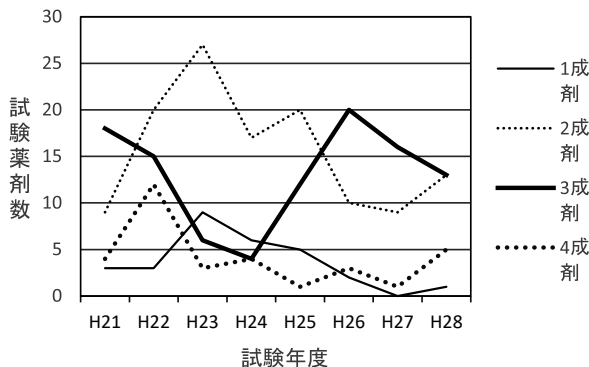


図-4 水稲除草剤評価試験数の推移(全体)

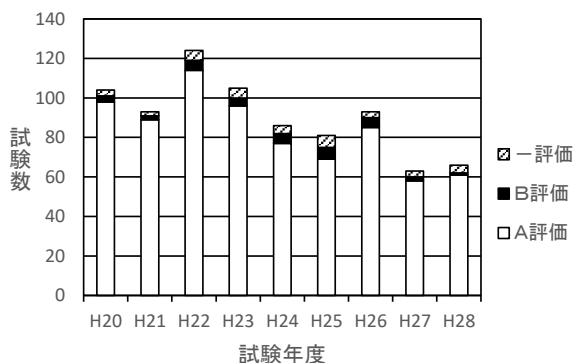


図-5 水稲移植栽培試験年度・成分数別の評価試験数の推移(雑草イネは除く)

